

教育システム情報学会

Japanese Society Information and Systems in Education

旧 CAI 学会

ニュース・レター No.113



発行日 2001年9月19日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
〒661-8620 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
〒06-4961-6507 FAX06-4961-6508

会長就任にあたってのメッセージ

教育システム情報学会会長 岡本 敏雄

教育システム情報学会の長い歴史の中で、歴代の会長、及びすべての会員のみなさま方のお陰を持ちまして、本学会も 1000 人を超える規模となりました。過去の伝統を踏まえ、かつ新しい活力のある学会にしていくために微力ではありますが、努力していきたいと思っております。

さて、新しい副会長として磯本征雄先生（名古屋市立大学）と小松秀園氏（NTT LS）にお願いをさせていただき、過日の理事会において承認、了解を頂きました。この新体制の元で、まずは学会の組織・機構の再検討をさせていただきました。そして、理事会の新たな常置委員会として、顕彰委員会と広報・WWW 委員会を設けることといたしました。さらに、理事会管轄の時限付きタスク・フォースとして、情報教育特別委員会と e-Learning 技術特別委員会も発足させて頂きました。なお、情報教育検討委員会は委員各位のご尽力により所期の目的を達成することができましたので、この委員会は廃止させて頂きました。

さて、今期の研究理念として次の 5 つの事柄を掲げさせていただき、学会活動を推進していきたいと考えております。

1. 先進教育情報システム（e-Learning 等）の研究開発と推進
2. 教育実践とその学術的理論化の重視（教授・学習論を含む）
3. 情報教育に関する体系的研究
4. 教育知識経営と新しい能力形成目標に対応した評価技術に関する研究
5. 国際化と産官学連携の推進

本学会の質の充実、量の拡大を目指して、組織・機構を再編成し、わが国を代表する“教育と情報通信技術”に関わる学会を目指したく存じます。それには、関連諸学会・団体との協同連携を図りつつ、同時に本学会の特色を明確にしていく努力も必要でありましょう。特に、報通信技術、知識処理技術、認知処理技術、情報メディア技術、高等教育、生涯教育、企業人教育といったキーワードは、本学会の主たる範疇として捉えるべき対象ではないかと考えます。

2 ページにつづく

当面の具体的な学会活動としては、以下の項目を想定しております。

- 年2回の学術シンポジュームの開催
- 支部制度の強化（北陸・上信越支部，東北支部の新設）
- 日本学会会議との連携の強化
- 2年に1回程度の国際会議またはセミナーの開催
- 年1回の英文ジャーナルの発刊
- 学会誌の一層魅力ある内容の編集
- 会員名簿の作成と会員への配布
- 迅速な対応を図るため、理事会開催回数の増加
- 研究部会の再編成（新設も含めて）

本学会が、ユニークな特色を有し、社会発展に対して有意義で、かつ高度な研究および研究者を擁する学会であるとの評価を国内外から得られるよう、理事各位および評議委員の皆様のお力とお知恵を拝借し、そして何よりも会員のみなさま方からのご意見を大切にしながら、教育システム情報学会会長の任を誠意務めていきたいと考えております。どうかみなさま方のご支援とご協力を賜りますよう、ここをお願いをさせていただき次第でございます。

最後に、来る高度情報通信社会は、人間の新しい能力開発とより健全な倫理が求められ、それを遂行できうる新しい教育のあり方、内容、形態、方法を開拓していかなければなりません。そのような研究、教育活動から生きた学術的な知恵が創出され、社会に還元されることを願っております。

教育システム情報学会第27回通常総会報告

2001年8月7日（火）13：20～13：55に、全国大会の会場である大阪大学コンベンションセンターMOホールで行われた。出席者230名（委任状156名を含む）。総会の議事に先立ち論文賞の表彰式があった。

「天文教育におけるコラボレーションによる3次元CG教材の制作と活用」

《毛利勝廣，鈴木雅夫，安田孝美，横井茂樹》（Vol.17，No.3，秋号）《特集》

以後、対馬会長を議長とし以下の内容について審議承認された。

- 第一号議案 2000年度活動報告に関する件
- 第二号議案 2000年度決算報告および監査報告に関する件
- 第三号議案 2001年度活動計画案に関する件
- 第四号議案 2001年度予算案に関する件
- 第五号議案 役員の任期満了に関する件

最後に、対馬会長より挨拶があり、その中で役員等の新体制については理事会と新会長に一任してほしい旨の発言がありました。その後、新会長の岡本会長より挨拶（VTRによる）があった。

教育システム情報学会第 26 回全国大会を終えて

実行委員長 豊田 順一（大阪大学）

去る 2001 年 8 月 7 日・8 日、大阪大学コンベンションセンターにて教育システム情報学会第 26 回全国大会を開催させていただきました。両日にわたり、延べ 750 人を越える参加者をいただき、21 世紀最初の大会にふさわしく、大変充実した大会になったのではないかと存じます。同時に、この分野への関心の高さを再確認した次第です。この紙面をお借りして、参加されました方々はじめ、実行委員の皆様ならびに関係者各位に、厚く御礼申し上げます。

今大会では、「教育システム新世紀～IT 革命を越えて～」のテーマのもと、講演、パネル討論会、企画セッション、一般セッション、デモ・ポスターセッションを企画いたしました。いずれも、大変充実した内容で、今後の教育システムを考える上でとても示唆に富んでいたと思います。特に、基調講演の佐伯先生（青山学院大学）からご指摘のあった「学んでみたいと思えるような場を与えるコミュニティづくりの重要性」や、特別講演の三宅先生（中京大学）からいただいた「協調的な営みが学習・教育のブレークスルー」のお話は大変興味深く、我々教育システム研究者にとって考えさせられる点も多かったのではないのでしょうか。また、懇親会にも 100 名を越えるご参加をいただき、ゆっくりと交流を深めていただけたことは大変うれしく思います。

また、本大会では、非常に多くの企業から展示（22 社）・広告掲載（10 社）・協賛（7 社）という形でご協力いただき、深く御礼を申しあげる次第です。全国大会では、講演だけでなく、こうした企業との接点を持たせていただくことは大変刺激的で有意義なことです。なお、企業の方々との交渉には、本大会副実行委員長の高橋先生（大阪府立工業高等専門学校）をはじめ、教育システム情報学会関西支部の諸先生に大変なご尽力をいただきました。深く感謝申し上げます。

最後に、次回以降の全国大会も、いっそう充実した大会になっていくことを願って、結びといたします。

第 4 回 論文賞

「天文教育におけるコラボレーションによる 3 次元 CG 教材の制作と活用」

毛利勝廣，鈴木雅夫，安田孝美，横井茂樹

平成 13 年度の論文賞の受賞者の発表が 8 月 7 日に大阪大学で行われた第 27 回通常総会の席上行われ、代表の毛利勝廣氏に表彰状が手渡されました。

本年度の対象となった論文は Vol.16, No.1（1999 年度春号）から Vol.17, No.4（2000 年度冬号）に掲載された 2 年間の論文 43 篇（実践論文、実践速報を含む）です。

論文賞の推薦にあたっては、5 月 9 日に募集を開始し、5 月末に締め切った時点で 8 件の推薦がありました。その後、所定の手続きに従って選考がすすめられ、8 月 7 日に開かれた理事会で決定されました。推薦理由：本論文では、天体の動きを理解させるためにシミュレーションを活用した興味深い内容である。シミュレーション教材の制作には、豊富な知識と精巧で高度な技術が必要とする。本論文は、専門分野ごとに分担し協力してシミュレーション教材を制作していく過程とその成果に関する実践的な内容を記述しており、教材開発の手順と方法を示す優れた論文である。

（文責 論文編集委員会 永野和男）

JSISE 75

去る、2001年9月8日(土)午前10時00分からアルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)において、教育システム情報学会第75回理事会が開かれ、以下の議題について審議した。

- | | | |
|-----|--------------------|--------------------------|
| 議 題 | 1) 新入会員の承認 | 2) 新理事の紹介、副会長の推薦 |
| | 3) 評議員の推薦 | 4) 理事の役割・担当について |
| | 5) タスクフォース-委員会について | 6) 来年度の開催校について |
| | 7) 五か条について | 8) 構造・機構改革について(規約改定を含めて) |
| | 9) 予算・活動計画について | 10) 事務局の役割について |

副会長に磯本征雄先生・小松秀因氏、評議員に向後千春・高橋参吉・西野和典・平嶋宗・横山節雄・石桁正士の各先生を承認した。学会の組織・機構を再編し、顕彰委員会、広報・WWW委員会・特別委員会等の設置、並びに各委員会等の理事の役割・担当を決定した(p.5に掲載)。来年度の全国大会の開催大学については早急に決めることとし担当理事に調整を依頼した。更に学会の質の充実、量の拡大を目指して五か条(p.1の会長挨拶に掲載)を確認するとともに積極的に構造・機構改革を進めることを決定した。各委員会の構成員と今年度予算・活動計画については次回の理事会で審議することを確認した。(事務局)

第84回研究会のお知らせ

企業内教育研究部会(部会長/小松秀因)

企業内教育研究部会は3ヶ月に1度のミニ報告会と1年に1度の研究報告会で年に4回の報告会をもう5年ほども続けています。

企業内教育はアメリカに比較すると遅れていると感じるところが幾つかあり、当事者としてはそのキャッチアップがテーマでしたが、最近ではeラーニング、コーポレートユニバーシティや社会人大学院などが日本でも話題になり、企業内教育で大学や大学院の知見を生かす道などが見えてきて、これまで接点の少なかった企業内教育と学校教育に共通のフィールドが出てきたように思えます。企業内教育にとってはeラーニングと社会人大学院で新しい教育の場が出来るでしょうし、学校教育の世界からも社会人教育という世界が見えてきて、まさに産官学が力を合わせて新しい教育を創り出す時代を予感させるようになりました。下記の要領で研究会を開催致しますので、是非ご参加下さい。

日 時：平成13年10月19日(金) 14:00~20:00

場 所： 東京電機大学エクステンションセンター(エクステンションセンターは神田キャンパス14号館です。)
〒101-8457 東京都千代田区神田錦町2-2 TEL03-5280-3680(エクステンションセンター)
地図 http://www.dendai.ac.jp/d2_guide/d2_9a.html

<テーマ>

- 1、「ユーザー事例：オートボックス社のeラーニングを利用した社員教育」
株式会社富士通ラーニングメディア 小迫宏行
- 2、「授業運営支援ツールの開発」
日立電子サービス株式会社 名取 宏
- 3、「Online Learning 2001の視察報告」
アイ・ソリューション 藤田由美子
- 4、「写真で見るアメリカのeラーニング事情」
NTTラーニングシステムズ株式会社 小松秀因
- 5、「HRM統合型e-Learningを可能にするLMS(Learning Management System)」
NTT-X 仲林 清
- 6、「ニーズに基づく人的資源開発設計の支援システム」
産業能率大学 平田謙次
- 7、「教育システム工学サーベイ 2001」
株式会社富士通ラーニングメディア 君島 浩
- 8、「シニアコンサルタントの分析するeラーニングの可能性と課題」
三和総合研究所 大嶋淳俊

■新役員・評議員の紹介

	新任 (2005年7月31日まで)	任期継続者 (2003年7月31日まで)
会 長	岡本敏雄(電気通信大学)	
副会長	小松秀園(NIT ラーニングシステムズ)	磯本征雄(名古屋市立大学)
理 事	赤堀侃司(東京工業大学) 清水康敬(国立教育政策研究所) 大槻説乎(広島市立大学) 対馬勝英(大阪電通大学) 竹内 章(九州工業大学) 菅井勝雄(大阪大学) 大下真二郎(信州大学) 菊川 健(メディア教育開発センター)	伊藤紘二(東京理科大学) 坂元 昂(メディア教育開発センター) 永岡慶三(メディア教育開発センター) 永野和男(聖心女子大学) 溝口理一郎(大阪大学) 矢野米雄(徳島大学) 渡辺成良(電気通信大学) 上月景正(コナミ) 山本 恒(園田学園女子大学 2年任期)
監 事	小荒井順(日本電気ソフトウェア)	今栄国晴(名古屋音楽大学)
評議員	松永公廣(摂南大学) 家本 修(大阪経済大学) 山崎敏範(香川大学) 奥田富蔵(東海大学) 樋川和伸(金沢学院大学) 向後千春(富山大学) 高橋参吉(大阪府立工業高等専門学校) 西野和典(大阪電気通信大学) 平嶋 宗(九州工業大学) 横山節雄(東京学芸大学)	黒瀬能幸(近畿大学) 渋井二三男(城西大学) 竹本宜弘(高崎商科大学) 前迫孝憲(大阪大学) 細井 正(山村女子短期大学) 三輪和久(名古屋大学) 村本 紘(金沢工業大学) 米澤宣義(工学院大学) 吉田 覚(日本データパシフィック) 石桁正士(大阪電通大学 2年任期)

但し、会長は2年任期です。

：会長指名

：理事後任

■新しい学会組織構成と担当理事および部会・支部

各種委員会と担当理事	部会と部長
会計 (大槻説乎・清水康敬)	
組織運営委員会 (矢野米雄・大下真二郎)	
研究会委員会 (伊藤紘二・溝口理一郎)	マルチメディア教材研究部会 (磯本征雄)
	企業内教育研究部会 (小松秀園)
	CAI 研究部会 (黒瀬能幸)
	インターネットとその教育応用研究部会 (横山節雄)
	情報教育研究部会 (松永公廣)
言語・知識処理応用研究部会 (伊藤紘二)	
編集委員会 (磯本征雄・竹内 章)	
企画委員会 (渡辺成良・小松秀園)	
大会企画委員会 (菅井勝雄・菊川 健)	
顕彰委員会 (永野和男・赤堀侃司)	
広報・WWW 委員会 (対馬勝英・永岡慶三・上月景正)	広報部会 (樋川和伸)
	WWW 部会 (林 敏浩)

特別委員会と担当理事(特別アドバイザー：坂元 昂)
情報教育委員会(磯本征雄)
e-Learning 技術委員会(小松秀園)

<支部と支部長>
東海支部(磯本征雄)
関西支部(高橋参吉)
中国支部(黒瀬能幸)

：主担当

第 82 回言語・知識応用研究部会の報告

部会長 / 伊藤紘二

言語知識処理応用研究部会は、学習をコミュニケーションという視点から見て、あらゆる形での言語あるいは知識の取り扱いを取り入れた教育支援システムの研究を、いろいろな分野から学びながら盛んにしてゆくことを目指しています。

本年 3 月 9 日（金）に、東京理科大学（神楽坂）において、第 82 回（第 1 回）、2000 年度の研究会を開催し、前日の大雪のあとにもかかわらず、28 名の参加者を得て、6 件の一般発表、1 件の招待講演、2 件のチュートリアル講演が行われ、大変活発な討論の場を持つことができました。

一般発表では、数学 / 理工学の問題解決支援 3 件、言語学習関連 3 件の発表が行われ、総じて、事例やイメージや例文など、エピソードを知識獲得の手がかりとして重視する点で共通していることが窺われました。今後、評価に基づく方法へのフィードバックが期待されます。

招待講演は、言語処理分野の第一人者である東京大学の辻井潤一先生に、「情報共有と知識共有のための言語処理技術の最前線」というテーマで、お話をいただきました。

辻井教授は、いままでの技術が、文書情報の作成と流通を主眼にしてきたのに対して、文書作成者が、その意図にそって一方的にカプセル化した文書情報を、文書情報を消費する側が、得たい情報に添って脱カプセル化を図る必要性を論じ、得たい情報を表現する言語表現パターンをシステムに学習させ、これを用いることによって情報表現のテンプレート中に所望の情報を取り出す興味深い技術を解説され、具体的には、辻井研究室で進行中のゲノム分野の文書からの情報抽出の研究を紹介されました。ご講演後、分野ごとの重要概念の言語表現パターンのレパートリを作りあげて行く方法について活発な討論が行われました。

チュートリアルでは、学習課題 / 活動の系列化とインストラクショナルデザインの方法が、学習者、学習環境、ゴールに依存して研究されるべきことが強調されました。

終了後懇親会が行われ、懇親の実を挙げつつ、情報交換を活発化する方法などを論じ合って散会しました。

なお、研究会資料の残部がまだあります。一部 1,300 円（郵送料込み）でお求め頂けますので、学会事務局宛に、お申込み下さい。

● 2001 年度研究部会の開催ご案内 ●

研究委員会より

第 83 回	マルチメディア研究部会（部会長 / 磯本征雄）	2001/07/07（土）: 信州大学
第 84 回	企業内教育研究部会（部会長 / 小松秀園）	2001/10/19（金）: 東京電機大学
第 85 回	CAI 研究部会（部会長 / 黒瀬能幸）	2001/11/17（土）: 佐賀大学
第 86 回	インターネットとその教育応用研究部会（部会長 / 横山節雄）	2001/12/08（土）: 東京学芸大学
第 87 回	言語・知識処理応用研究部会（部会長 / 伊藤紘二）	2002/01/26（土）: 東京理科大学
第 88 回	情報教育研究部会（部会長 / 松永公廣）	2002/03/16（土）: 摂南大学

第 24 回情報化学討論会のご案内

本学会協賛の討論会です。情報化学討論会は、化学・薬学・農学分野のコンピューターソフトウェアの開発並びにそれらの高度利用を目指して開催されています。本年度は、学習システムのセッションも予定されています。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

主催 日本化学会情報化学部会

共催 日本薬学会, 日本農芸化学会, 日本分析化学会, 日本化学プログラム交換機構

協賛 教育システム情報学会

日時 2001年11月7日(水)~9日(金)

会場 徳島大学蔵本キャンパス [徳島市蔵本3・庄町1]

交通 JR 徳島駅前バスターミナル1番乗り場より市バス1,4,17,19系統,「医学部前」下車後すぐ

大会参加費

参加登録費(当日) [一般]9,000円,[学生]4,000円

懇親会費(当日) [一般]8,000円,[学生]6,000円

詳細についてはURL: <http://www-chemist.is.tokushima-u.ac.jp/cicsj24/> をご覧下さい。

連絡先

〒770-8506 徳島市南常三島町2-1 徳島大学工学部知能情報工学科 矢野 米雄

Tel: 088-656-7495; Fax: 088-623-2761

E-mail: cicsj24-desk@is.tokushima-u.ac.jp

(御都合により WWW を御利用になれない方は、上記連絡先までお問い合わせ下さい)

新入会員の紹介

新入会員 (敬称略)

JSiSE-A0101801 金山茂雄	拓殖大学	正会員
JSiSE-A0101802 椎木 衛	早稲田大学	準会員
JSiSE-A0101803 瀧本浩一	山口大学	正会員
JSiSE-A0101804 望月 源	北陸先端科学技術大学院大学	正会員
JSiSE-A0101805 THEPCHAI SUPNITHI	国立研究所	正会員
JSiSE-A0101806 池村 務	北陸学院短期大学	正会員
JSiSE-A0101807 稲葉光行	立命館大学	正会員
JSiSE-A0101808 吉田健之	KPMG コンサルティング(株)	正会員
JSiSE-A0101809 黒田哲也	千葉工業大学	正会員
JSiSE-A0101810 山本秀樹	沖電気工業株式会社	正会員
JSiSE-A0101811 吉田真友	近畿大学大学院工業	準会員
JSiSE-A0101812 道之後良	日本化学工業株式会社	準会員
JSiSE-A0101813 新谷公朗	常盤会学園大学	準会員
JSiSE-A0101814 吉田英司	近畿大学	準会員
JSiSE-A0101815 北村光一	滋賀県立八幡高等学校	正会員
JSiSE-A0101816 三浦徹志	大阪成蹊女子短期大学	正会員
JSiSE-A0101817 阿部一晴	京都光華女子大学	正会員
JSiSE-A0101818 磯野喜美子	大阪薫英女子短期大学	正会員
JSiSE-A0101819 櫛田直規	大島商船高等専門学校	正会員
JSiSE-A0101820 伊藤栄一郎	山梨学院大学	正会員

2001年6月2日~2001年7月31日

第 85 回研究会発表募集のご案内

CAI 研究部会（部会長 / 黒瀬能幸）

1. 日 時：平成 13 年 11 月 17 日（土）10：30～16：30
2. 開催場所：佐賀大学理工学部 7 号館（旧情報科学科棟）
アクセスについて <http://www.saga-u.ac.jp/koutuu.htm> を参照ください。
3. 発表申込先・論文送付先：佐賀大学理工学部 林 敏浩
〒840-8502 佐賀市本庄町 1 番地
佐賀大学理工学部知能情報システム学科 林 敏浩 E-mail: hayashi@is.saga-u.ac.jp
TEL:0952-28-8597 FAX:0952-28-8650
発表申込先と論文送付先が学会事務局ではありませんのでご注意ください。
4. 発表申し込み方法：上記申し込み先へ下記の内容を電子メールでお送りください。
電子メールがご利用になれない場合は郵送でも結構ですが、5. の申込締切必着でお願いします。
発表申込み要項
(1) 発表題目
(2) 発表者すべてのお名前、所属
(3) 発表代表者のお名前、郵便の届く連絡先、電子メールアドレス
後日、論文執筆要項をお送りします。
なお、原稿のページ数は 6 または 8 ページ（偶数ページ）を予定です。
5. 発表申込み締切日：平成 13 年 9 月 29 日（土）
6. 論文提出締切：平成 13 年 10 月 17 日（水）必着 3. の論文提出先に郵送ください。
7. 問い合わせ先：本研究会担当 林 敏浩（佐賀大学理工学部） 電子メール等は 3. を参照ください。

第 86 回研究会発表募集のご案内

インターネットとその応用研究部会（部会長 / 横山節雄）

インターネットとその応用研究部会を以下の要領で実施したいと思います。多数の研究発表をお待ちしていますので、ふるってご参加をお願いします。

1. 日 時 2001 年 12 月 8 日（土） 午後 1 時より
2. 開催会場 東京学芸大学 南講義棟（S 棟）410 教室
3. 発表申込締切 2001 年 10 月 26 日（金） タイトル、発表者を申込先にメールで申し込む。
4. 予稿締切 2001 年 11 月 21 日（水）
5. 発表申込先 東京学芸大学（横山節雄）E-mail : yokoyama@u-gakugei.ac.jp まで。申し込みがあった順に原稿依頼します。
6. 原稿提出先 JSiSE 本部事務局へ。

交通案内 中央線武蔵小金井駅北口下車（特別快速の場合は三鷹で快速に乗り換え）
京王バス小平団地行 5 分・学芸大正門前下車

第 87 回研究会発表募集のご案内

言語・知識処理応用研究部会（部会長 / 伊藤紘二）

さて、第 87 回（第 2 回）、2001 年度の研究会を下記のとおり予定しております。どうぞ、奮ってご発表、ご参加をお願い致します。

1. 日時：2002 年 1 月 26 日（土）10：30～17：30
2. 会場：東京理科大学（交通：JR 飯田橋駅下車）
3. 内容：

公募研究発表
言語処理や知識処理に関するチュートリアル
実践的研究の依頼講演
ディスカッション

なお、研究会終了後、懇親会を予定しています。こちらも是非ご参加下さい（会費 3,000 円程度の予定）。
問い合わせ先（担当幹事）：池田 満（大阪大学産業科学研究所）E-mail：ikeda@ei.sanken.osaka-u.ac.jp

4. 研究発表募集

申し込み締め切り：2001 年 11 月 9 日（金）
原稿締切：2002 年 1 月 7 日（月）（原稿は 2 ページから 6 ページの偶数ページで）

下記のフォームで担当幹事（池田 満）までメールでお申し込みください。

発表タイトル：
著者・所属：
発表概要（数行程度）
著者連絡先：
原稿ページ数（2，4，6）：

とくに、この部会では、従来の形態の研究会より一歩ふみこんだ研究者間の交流の場の形成を最大の主眼にしております。詳しくは <http://www.itlb.te.noda.sut.ac.jp/~itoh/nlcp/nlcp.html> をご覧ください（JSiSE のホームページからもリンクできます）。

上記ページにもご案内しておりますように、部会員相互の議論の場として CoAFAQ（Collaboratively Answered Frequently Asked Questions）を運用しています。参加される方は、上記ページにリンクされた登録ページで、メーリングリストに登録して頂くか、あるいは下記宛、メールでお申込み下さい。登録された方には、CoAFAQ の URL をお知らせします。

E-mail：itoh@te.noda.sut.ac.jp

会費未納の方にご請求します。

会費の前納にご協力ください。

今回、未納の方のみに請求書と振込用紙を同封しましたので、ご納入のほどよろしくお願い申し上げます。請求書発行時（約 1～2 週間前）の行き違いについてはご容赦ください。また、不明な点についてはまことにお手数ですが、事務局へメールでお問い合わせくだされば幸いです。

問い合わせ

教育システム情報学会事務局

〒661-8620 尼崎市南塚口町 7-29-1

園田学園女子大学情報教育センター内

E-mail：secretariat@jsise.org

同封の振込用紙をご利用ください。

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

本案内はWWW

(<http://www.fu.is.saga.ac.jp/~hayashi/jsise/conf.htm>) で見ること
- * * * *

PYIWIT'02 : Pan-Yellow-Sea International
Workshop on Information Technologies
for Network Era

開催日程 : 2002 年 3 月 7-8 日

主催 : Information Processing Society of
Japan (IPSJ), Kyushu Chapter,
Saga University

開催地 : Saga, Japan

論文応募締切 : 2001 年 10 月 15 日

URL :

<http://www.db.is.kyushu-u.ac.jp/PYIWIT02>

e-mail : akifumi@is.kyushu-u.ac.jp

NL 2002 : Networked Learning in a Global
Environment: Challenges and Solutions
for Virtual Education

開催日程 : 2002 年 5 月 1-4 日

主催 : The Natural and Artificial Intelligence
Systems Organization (NAISO) Canada

開催地 : Technical University of Berlin,
Germany

論文応募締切 : 2001 年 9 月 20 日

URL : <http://www.icsc-naiso.org>

e-mail : nl2002@ITStransnational.com

AVI 2002 : ADVANCED VISUAL

INTERFACES International Working
Conference

開催日程 : 2002 年 5 月 22-24 日

開催地 : Trento, Italy

論文応募締切 : 2001 年 11 月 18 日

URL : <http://www.diel.univaq.it/avi2002>

<http://www.ing.univaq.it/avi2002/>

e-mail : marilena@dsi.uniroma1.it

ITS 2002 : The Sixth International Conference
on Intelligent Tutoring Systems

開催日程 : 2002 年 6 月 5-8 日

主催 : University of Pau, AIED Society, IEEE
CS

開催地 : Biarritz, France

論文応募締切 : 2002 年 1 月 7 日

URL : <http://www.itsconference.com>

e-mail : gouarde@larrun.univ-pau.fr

以下、前号にも掲載

SITE 2002: annual conference of the Society
for Information Technology and
Teacher Education

開催日程 : 2002 年 3 月 18-23 日

主催 : AACE

開催地 : Nashville, Tennessee, USA

論文応募締切 : 2001 年 10 月 19 日

URL : <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail : conf@aace.org

ED-MEDIA 2002 : World Conference on
Educational Multimedia,
Hypermedia and Telecommunications

開催日程 : 2002 年 6 月 24-29 日

主催 : AACE

開催地 : Denver, Colorado, USA

論文応募締切 : 2001 年 10 月 29 日

URL : <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail : conf@aace.org

国際会議案内文責 松原 行宏 (香川大学)

E-mail: matsubar@eng.kagawa-u.ac.jp

第 83 回研究報告

【マルチメディア教材研究部会】

ここに掲載してあるのは、概要ですが、これらの論文は、研究報告書にあります。ご希望の方は、事務局まで FAX (06-4961-6508), または E-mail でお申し込みください。1部 1,300 円 (送料共) です。残部切れの際はご容赦ください。この「研究報告」の年間購読 (購読料は送料込みで年間 4,000 円) をご希望の方は事務局までご連絡ください (年間 6 回)。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします (教育システム情報学会研究委員会委員長 / 大下真二郎)。



- ・開催日：2001 年 7 月 7 日
- ・場 所：信州大学

さらに、画像の濃度変換やフィルタリングの学習に利用できるツールを表計算ソフトで作成した。これらの教材の紹介および利用方法について述べる。

1. 社会見学における VOD 教材の活用

飯島俊秀 (長野市立山王小学校), 柳澤勉 (長野市立七二会小学校), 中澤康匡 (長野市教育委員会), 緑川明廣 (NTT 東日本長野支店)

3. 伝統芸能の保存と継承のためのマルチメディア教材の作成

北川博美 (中部学院大学短期大学部)・磯本征雄 (名古屋市立大学)

小学校社会科の事業において、社会見学での学習は、事前に教科書や資料集めでの学習をして、見学したことを教室で思い出しながらまとめ、わからないことは教師が説明するというものだった。本研究において、VOD ならびにインターネット VOD を用いて、見学の事前・事後に学習することを通して、子どもたちが見学に行く目的がはっきり持てたり、見学後に持った疑問について調べることができ、課題解決学習をすることができた。

各地方に伝わる伝統芸能は、ほとんどが口承で伝えられてきており、現在では後継者の確保に苦労しているところも多い。一方、こうした地域の芸能や文化を見直そうとする動きも多く見られる。本稿では、愛知県知多地方の伝統芸能「尾張万歳」を題材に、保存と伝承のためのデジタル・コンテンツとしての学習教材の作成について報告する。

2. デジタル画像処理のための学習ツールの開発

高橋参吉・下倉雅行 (大阪府立工業高等専門学校)

4. TV 電話を活用した分校と本校及び地域施設との交流

江島正芳 (長野市立芋井小学校), 中澤康匡 (長野市教育委員会) 緑川明廣 (NTT 東日本長野支店)

本研究の目的は、高等学校普通科における教科「情報」の中で、主に、「情報の科学的な理解」に関する内容の教材と指導方法を提案することであり、さらに、高等教育で利用できる連続性を持った教材を開発することである。本稿では、「情報のデジタル化」の単元における画像の標本化と量子化、

長野市では、平成 10 年度より光ネットワークを用い、マルチメディアの教育利用について様々な実践研究がされてきている。そのなかで、コミュニケーションの手段としてマルチメディア機器の利用方法を探るべく、TV 電話を活用することにより、本校のように分校を持つ学校の課題をなっ

いるその間の交流で、効果が認められた。また、他校および地域施設との交流でも有効性が認められた。

5 .かきつばた II:学習者制御型 CAL システム「かきつばた」Windows 版の開発と試行

江島徹郎・平田賢一・野崎浩成(愛知教育大学)

これまで、実用型 CAL オーサリング兼教材実行システムとして「かきつばた」が研究・開発されてきた。ここでは、「かきつばた」システムの基本的な設計思想を継承発展させるとともに、より最近のコンピュータ利用環境や技術的進展に対応させることによって、学習システムとしての機能向上を図ることを目的として、「かきつばた」の開発を行い、利用を試みた。特に、インターネットのハイパーテキストである WWW の技術を利用することにより、より豊かな学習者制御の環境を提供するとともに、さらにコンピュータについて特別の知識を有しない一般の教育関係者の利用を可能とするような簡易実用性を向上させることが期待できる。

6 .コンピュータネットワークを併用した遠隔講義の試み

上村喜一・半田志郎・田中清・橋本佳男
・佐藤敏郎(信州大学)

遠隔講義で理科系の講義を行う場合、数式を表現が問題となる。解像度の高い大型スクリーンでも添え字を含む数式をストレス無く表現することは難しい。そこで、受講者が全員ノートパソコンを持ち、これをネットワークに接続して大画面スクリーンと同じ内容を手元に表示することによってこの問題を解決することを試みた。この方法は単にスクリーンの解像度を補うことに加えて、様々な展開が可能であることがわかった。

7 .ビデオサーバを用いたマルチメディア教材配信システムの構築

堀田佳宏・山崎初夫・多和田昌弘・下山 宏
(名城大学)

近年、パーソナルコンピュータ(以下パソコン)の普及が進み教育の場においては、一人に一台が割り当てられるまでになってきた。また、学内のパソコンのネットワーク化も進んでおり、インターネット利用も可能となってきた。このコンピュータネットワークを有効利用することでこれまで実現が難しかった個別学習のためのマルチメディア教材の配信が可能となる。本学ではネットワーク等の更改により、新しくマルチメディア教材配信システムが設置された。本報告では配信ソフトに Cisco 社の IP/TV3.0¹⁾を、また配信素材として衛星放送(CS)で放送されている「TOEIC 英語講座」を用いた本システムの概要と運用方法及びこれからの進め方について述べる。

【特別講演】

8 .信州大学バーチャル大学院計画について

不破泰・和崎克己・師玉康成・中村八束(信州大学)

我々は、2002 年度より大学院工学研究科情報工学専攻課程において、バーチャル大学院を設立する。本年 4 月初頭、この計画を発表して以来、実施内容や入学手続きなどに関する多数の問い合わせを連日のように受けている。また、このことを掲載したホームページへのアクセスは、1 日あたり 2000 件を越える状態が続いている。このバーチャル大学院は、我々の数年間の準備および様々な試行と評価を経て準備してきた Web を用いた CAI システムを用いた教育コンテンツ講義がその中心となる。本報告では、我々の大学院計画について述べる。

教育システム情報ハンドブックができました。

この機会に是非お買い求めください。予価(本体 3,800 円+税) 申し込みは実教出版へ

